

予算等審査特別委員会

予算等審査特別委員会（議長を除く19人の議員で構成、委員長は多田誠一議員、副委員長荒川栄悦議員）は、条例15件、予算16件、その他6件について付託を受けて6日間の審議を行いました。

今委員会では、23年度補正予算等と24年度一般会計予算等が示され、活発な質疑が交わされました。その結果、全37議案が原案のとおり可決されました。



徴収強化に向けた様々な取り組み

税の滞納処分に係る実力行使について

問 税の滞納処分に係る実力行使について伺う。

答 市税滞納者について、それぞれの事案を検討し、取り組んでいる。処分可能な財産があり、生活に影響を及ぼさない程度で、禁止財産に配慮し、処分可能な物を差し押さえ換価しなければならぬ。これは、納税義務を果たしている多くの人に対する責任と考える。

今後、滞納者一人ひとりの内容を調べ、選択してきめ細かい対応をしていきたい。

放射能問題について

問 放射能問題に関わって、先に開催された説明会では、除染の対象とならない草地についても、不安があり、更新したい場合も補助する旨の説明があったと聞かれました。

答 国・県では対象にならないと言っているものの、市としては今後も対応していきたい。

問 粗飼料の確保についても同様に補助するのでしょうか。

答 農家に負担をかけないように、配慮して取り組む。

問 除染対象外農家の面積の取りまとめが必要と考えるが、どのように対応するののか。

答 今後、国・県の除染方針などが示されるので、そうした計画の手順に合わせていきたい。

問 行政の畜産・農業に関連する放射能対策について、本事業は将来に不安を抱くものであり、大きな危機管理と捉える。※トップマネジメントが、遠野テレビなどの情報媒体を活用し、対応すべきと考えるが。

答 大変な状況であり、国や県の対応策が示されていない情勢の中で、市ができる対応策を検討している。畜産公社においては、放牧事業が不可能となることから、事業運営上独自の除染作業の可能性を協議し、石羽根・笛吹での放牧の可能性など、できることを洗い出す。今後、遠野テレビ・広報とおの等を通じて、農家に周知を図ると共に、対応策を早め早めに

対応するののか。

市庁舎整備基金の積み立てについて

立てて動く体制を構築し、農家にPRする。

問 基金積立額は1億円に固執せず、その都度予算規模に応じて額を決めるものと理解しているか。

答 計画的な積み立てが必要と認識している。様々な条件が絡むと想定されるが、一応毎年1億円を積み立てる予定だ。

問 基金の金額設定は、市民生活に与える影響も考えながら弾力的に取り組むべきと思うが。

答 常に実施計画を検証し、その中で状況を確認しながら対応したい。

※1… トップマネジメントとは企業の経営管理組織の最上層部。人事・経営方針などの重要事項についての意志決定を行う人のこと。